

佐渡米通信

こめへる

2024年 6月号

発行日:2024年6月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

「衛星画像×AI技術」の導入

JA佐渡は、品質の安定化と収量確保のために栽培管理システム「xarvio®FIELDMANAGER(ザルビオフィールドマネージャー、以下ザルビオ)」の実証試験と普及推進に今年度から取り組み始めました。生産者の高齢化・人口減少に伴い、1人当たりの経営規模は増加傾向にあります。これに伴い圃場ごとの状況把握・適期管理が難しくなっています。ザルビオはこれらの課題解決に有効な手段であると考えます。主な機能である圃場ごとの生育ステージを予測する機能は、登録した全ての圃場の作業適期の目安を知ることが出来ます。また、可変施肥機能を活用することで、圃場内の生育ムラ解消によって品質・収量向上が出来るかと期待しています。

JA佐渡では本システムから多くの圃場の状況を把握することが出来るため、米の品質向上や営農計画の判断材料として水稻指導にも活用していきたいと考えています。



ザルビオを確認するJA佐渡職員

佐渡の米農家さんにインタビュー

第3回「おいしい佐渡米コンテスト」で最優秀賞を受賞した古屋野勝さんにインタビューさせて頂きました。古屋野さんは「朱鷺と暮らす郷」認証米コシヒカリと酒米を3.5ha作られていて、これまで八代目儀兵衛主催のお米コンテスト「お米番付2022」で敢闘賞を受賞されたり、JA佐渡トップブランド米に選ばれた経歴があります。

古屋野さんは美味しいお米づくりのヒントを得るために様々な書籍から日々情報収集を行い、試行錯誤をしながら今年で14年目のお米づくりになるそうです。7年前に出会った本から「田んぼから白米以外は持ち出さない」という考え方を得て、土づくりを基盤とした米づくりに取り組まれています。粃殻や稲わら、米糠をベースとしたオリジナルのぼかし肥料を作って田んぼに還しているそうです。「土を良くしてあげることで異常気象に耐えられる稲となり、品質の高いお米に繋がっているのではないかと話されていました。

古屋野さんは作り手が安心して作れることも大切だと考えられているようで、「生きものにやさしい農業は人にもやさしい」という考え方に基いて朱鷺と暮らす郷認証基準よりも更に農薬を減らしています。農薬は品質を下げる虫以外の益虫も傷めつけてしまうし、自分自身が防除する際に吸ってしまうのも抵抗があったため、このような考え方に至ったと教えてくれました。

資材が高騰する中、稲わら、粃殻は田んぼの土づくりに有用な資材であるため、JA佐渡でも積極的な施用を進めています。



「これからも美味しいお米をつくりたい」と賞状を手にする古屋野さん



赤泊地区



古屋野さんのFacebook



指に止まる赤トンボ ※1



圃場で羽化している赤トンボ ※2



江のそうじの様子 ※3

徹底した水管理

生育段階に合わせた
こまめな水管理で
品質向上!



朝霧が晴れると弥彦山が臨める棚田 ※4

※1~4画像提供：古屋野勝様

温湯消毒 春耕耘 苗づくり 田植え 水管理 中干し 穂肥 稲刈り 秋耕耘 ふゆみずたんぼ



facebook



instagram



JASADOTANBO